諫早市総合教育会議議事録

令和６年度

令和６年度 諫早市総合教育会議

１　日　時　　令和７年１月２２日（水）　１５時３０分～１７時００分

２　場　所　　諫早市役所　８階　８－１会議室

３　出席者　　市　　長　　大久保潔重
　　教　育　長　　石部　邦昭
　　教 育 委 員　　中野　高子
　　教 育 委 員　　原田　裕介
　　教 育 委 員　　山口　秀雄
　　教 育 委 員　　小野　靖彦

４　会議に出席した職員
　　企画財務部長　　山下　宏二
　　教育次長　　石橋　芳秋
　　教育総務課長　　新野　純子
　　学校教育課長　　田上　顕二
　　生涯学習課長　　竹島　健吾
　　学校改革推進室長　　池　　政信

５　傍聴者　　０名

６　議　題　　意見交換
　　テーマ「育ててよしの教育について」

　　その他

〇教育総務課課長補佐

定刻になりましたので、ただいまから令和６年度諫早市総合教育会議を開会いたします。

総合教育会議は「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会が意思疎通を図ることを目的とした会議の場でございます。

それでは本日の出席者のご紹介をいたします。

（出席者の紹介）

本日の会議につきましては、議事進行を石部教育長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

〇教育長

それでは私の方で進行させていただきます。

初めに大久保市長からご挨拶をお願いしたいと思います。

〇市長

今日は、教育委員の皆様におかれましては、新年のお忙しい中に総合教育会議ということでお集まりをいただきましてありがとうございます。

この総合教育会議は、平成２７年４月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正によって、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図って地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層、民意を反映した教育行政の推進を図るということで、この会議自体がスタートいたしました。

最近の諫早市の動きとしましては、まず過疎地に指定されております小長井地域の三つの小学校がいよいよ統合するということで令和７年度からスタートしていきます。そして令和１０年の４月からは小中一貫の義務教育学校としてスタートしていくように今準備を進めているところであります。

それから今年度の４月からは、市立小中学校の学校給食費の無償化を、県内に先駆けて実施をさせていただきました。そして令和７年度には、アレルギー給食を諫早市は８種類を対象に代替食を提供しておりますけれども、それでも対応ができないアレルギーのお子さんが複数いらっしゃるので、その部分を不公平感がないように、しっかり対応していくような新しい予算案を、７年度の当初予算案に入れ込んで、アレルギーのお子さんにも安心して学校生活を送れ

るように対応していきたいと思います。
　本日の会議のテーマは「育ててよし」ということでありまして、もうご承知のように私の掲げる郷土の近未来像「来てよし、住んでよし、育ててよし！あなたのまち・諫早！！」ということで、やはり最後は、人を育てる、まちを育てる、というその思いで掲げております。そういう中でいろんな視点から、今日は教育委員の皆様方のご意見をいただきながら、諫早市の未来についていろんな議論ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇教育長
　ありがとうございました。それでは意見交換に入りたいと思います。
　本日は先ほどもありましたように、大久保市長が掲げる諫早市の近未来像「来てよし、住んでよし、育ててよし！あなたのまち・諫早！！」の中の「育ててよし」と教育委員会が掲げます第３期諫早市教育振興計画の基本理念「夢を育み　未来をつくる　教育のまち　諫早」の実現のために、それぞれの思いを語り合うということにしております。
　今日は最後に結論を出すということよりも、今日話したことが一つのヒントになって、大久保市長の市政また教育委員会の政策に反映できれば、非常に有意義なものになるんじゃないかなと思います。
　先ほどもありましたように、市長が常日頃から市政運営の柱の一つに教育を掲げていただいておりまして、今回の「広報いさはや」を皆さんはご覧になったでしょうか。「叶」という字ですね、この中に、力強く、子育ての３本の矢「小中学生の福祉医療費の現物給付」、それから「同時在園の第２子に係る保育料の無償化」、そして「市立小中学校の学校給食完全無償化」と３本の矢が放たれたということで、種をまいて、今年はそれが叶う年だというように話をされております。また、小長井地域においては、令和７年度に３小学校が統合し、令和１０年度に義務教育学校が設立されるということで、市においても力強くバックアップをしていただいております。
　そういったこともありますので、今日はどうぞ大いに「育ててよし」について市長さんにもお話をしていただき、また教育委員さんにも思う存分語っていただければと思います。
　最初に事務局から説明をお願いしたいと思います。

〇教育総務課課長
　それでは話しをしていただく前に私の方から、もう少し詳しく説明をさせて

いただきたいと思います。
　資料の２ページをご覧ください。
　本日の諫早市総合教育会議では、諫早市の教育について、大久保市長が掲げる諫早市の近未来像「来てよし、住んでよし、育ててよし！あなたのまち・諫早！！」の特に「育ててよし」の部分と、諫早市教育委員会の第３期諫早市教育振興基本計画の基本理念であります「夢を育み　未来を創る　教育のまち諫早」について、諫早の未来について語り合っていただきたいと思っているところでございます。
　下の方をご覧ください。
　本市の教育が目指す人間像ですけれども、「自立した人」、「協働できる人」、「創造性に富む人」、「絆を大切に育み活かす人」でございます。
　これらの「自立」「協働」「創造性」「絆」をキーワードに、「地域経済、情操教育等」の視点、「心身の健康、健全な成長等」の視点、「幼児教育、保護者対応」の視点、「メディア教育、家庭教育等」の視点からご意見をいただければと思っております。
　３ページにつきましては、「育ててよし」の中で、諫早市が今、実施しております事業をピックアップして載せております。下は諫早市教育振興基本計画が掲げる４つの目標を載せておりますので、こういったところを参考にしていただきながら、本日はざっくばらんな形で、話し合いをしていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
　私の方からの説明は以上になります。

〇教育長
　今ありましたように資料を準備しておりますので、それを一つの参考にしていただいて、「育ててよし」の部分を深掘りしていきたいと思っております。
　それでは皆様からご意見をいただきたいと思います。
　市長より「育ててよし」という教育について、ご意見等いただければと思います。

〇市長
　今回の「広報いさはや」に新年の抱負ということで、一文字で表すなら「叶」ということで、これは音読みしたら「きょう」、「叶」というのは協力、力を合わせる、調和をするという意味もあるんですけど、昨年は干拓の「拓」と書いて「ひらく」という字を当てて、諫早の明るい未来を切り拓いていこうという

ことで職員一丸となって取組を進めてきまして、おかげさまで未来が拓けた年になったのではないかなと思っております。今年はやはり市民の皆さんが、その未来に夢を描いて、夢を一つ一つ叶えていく年にできればと思います。そういう意味では「育ててよし」の部分でも、これから諫早で育っていく諫早っ子たちが夢を描く、そしていろんな夢を選択できる、そういったまちにしたいなと思っていまして、そういうものをやっぱり残していきたいなと思います。その中で、資料の３ページの上のところ、これは実は４年前の私が市長選に出たときの公約で、思いとしては、子供たちが夢を描く選択肢を増やしてやりたい、それぞれ子供たちには個性があるので、そういう多様な才能や個性を伸ばしていきたいとか、学問ももちろん大事ですがスポーツや芸術の分野で活躍できる人を育てたいとか、また政治、経済それからこれから国際社会ですので、海外でも通用していくような人材を育てたいとか、そういったことを掲げていますので、そういったところからいろいろご意見、またアドバイスをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

〇教育長

ありがとうございます。

今、いろいろと話がありました。市長の思いを聞かれて皆様、どんな感じでございましょうか。

〇教育委員

まず諫早のポテンシャル、その市民性がものすごく高いのではないかと思われるのが、やはりボランティア協議会、図書館もそうですけども、非常にボランティアが多いというところが一つの特色だと思うんです。ご存知だと思いますけどお隣の大村はボランティア協議会がないというところで、諫早はボランティアをやっている、それを皆さんやお子さんが見ているところがあると思います。

特に諫早の図書館は九州の中でも名だたるところです。２４、５ぐらいボランティア団体があるんじゃないでしょうか。それでまかなって、いろんなイベントもやっているというところでは、非常に子供たちには良い影響を与えているんじゃないかなと思います。

ましてや学問、スポーツ、芸術というところでいくと芥川賞作家がいた、直木賞作家が生まれた、そういったところでもあります。

あと例えば伊東静雄の「菜の花忌」というのもありますし、菜の花忌をやり

始められた上村　肇さん、上村さんは詩人で非常に先鋭的な詩人で、イギリスの教科書に載ったというような方も、この諫早にいたというところもありますので、ものすごく個体が非常に目立たないんですけど、非常にポテンシャルが高いという土地柄がすごくいいと思うんですね。

またスポーツでもいろんな有名な方が出てらっしゃる、経済界でも女性の投資家、多分諫早高校が呼ばれたと思いますけれども、野中町にいらっしゃった方で、エコノミストかもしくは日経が選ぶ１００人の中の 1 人という女性の経済界の方がいらっしゃいます。若手の方です。

こういった人材をフィードバックするということで、どうにかして人材バンクができないだろうかと私は非常に昔からそれを思ってまして、特に大学教授も諫早出身の方が結構いらっしゃると思うんですね。

ＡＩＤＳの研究で世界的に名だたる、京都大学の木原さんもいらっしゃいますしね。

こういったところの人を全て人材バンクで繋げていただいて、子供たちに例えば講演会なり、そういうフィードバックがこれから必要になってくるんじゃないかと。各学校でその母校でやってらっしゃるところがあるんですけども、これを一つの諫早の財産として、見ていくべきではないだろうかと思います。

特にここ最近では、先ほど政治経済分野あるいは海外でも通用する人材育成をすると出てますけども、山邊　鈴さんというすごい有名な方が出ましたよね。

インドに行っていろんな活動されて戻ってきて、いきなり国連総長に会うって言って出かけていって、あって話を聞いて戻ってきて、1年向こうに行ってたから諫早高校では一つ下がってしまいましたけど、海外のすごい有名なヒラリーが出た大学に行かれて、今回ちょっと戻ってきてましたけど、どうもキャリアになったみたいです。先月かな１２月の文藝春秋だったと思うんですよ。文藝春秋のＳＤＧｓエッセイ大賞の審査員になってましたもんね。文藝春秋の編集長、それと小説家の角田光代さん、それと山邊　鈴なんですよ。こういうのが諫早から出てきたってのはすごくやはり素晴らしいことで、彼女は高校のときに note（ノート）に出したエッセイがすごく話題になって、Windows の成毛さん、昔マイクロソフトの社長だった成毛さんが拾い上げちゃって、成毛さんの番組で呼ばれたりとかしてるんですね、高校のときに。

こういうのがやっぱ生まれた土壌が、諫早にあったんだっていうのをすごく素晴らしいことで、彼女のようになりたいというのが、今出てきてるみたいなんですよね。高校生でこういうのがやっぱりどんどん広がっていけばいいんじゃないかなと私思ってます。これがひいては私達のこの地域経済には絶対に繋

がっていく何かしらこの人材から得るものが出てくるんじゃないかなと思ってます。

話はまたガラッと変わりますけど、情操教育という面でいけば、実は音楽の時間がもう二、三十年前から授業の中で非常に少なくなっているのが確かなんですね。私達子供の頃には 1 週間に 2 時間だったのに小学校、中学校で 1 週間に 1 時間しかない。情操教育に携わってる者から言わせると非常に貧富の差が出てるんですよ。だからお金があるところは情操教育をなさってらっしゃる。だけどやらないところは全くやらない。例えば三拍子はみんなすぐできましたよね。実は図書館フェスティバルの中でリズムに合わせて三拍子をやりましょうねと、そしたらこれがやれない子がいるんですよ。これはちょっと情操教育に差がものすごく出てきたなと思ってます。ちょうどその諫早文化会館がこれだけ改装されていったときに、音楽を聞く機会というものをいっぱい与えてやらないとやっぱりわからない。昔はレコード鑑賞会というのがあって、クラシック嫌いでもクラシックを聞かせられたですよね。ペルシャの剣とかね、いろいろあったじゃないですか昔の名曲とか。そういうのを実際に聞いてたのが常識として、コモンセンスとしてずっと残ってたはずです。今はないんですよね、こういうのが。—だから実際に音楽を聞かせてやりたい。会場として文化会館がものすごくいいところがあるんでこういったのをぜひ各学校で見に行かせてやりたいなと。

特に諫早の場合は、自主事業を芸術鑑賞会があります。これは非常に諫早の優れたもので、いろんな本当に良い講演をやってるんですよ。これをぜひ良ければ予算をつけていただいて各学校に見せてやりたいなというのがあるんですね。音楽もそうですし、演劇もそうですし、いわゆる古典芸術ですね。古典芸術なんてなかなか自分で金払っていこうと思いませんから、こういうのをぜひ小学校中学校の義務教育のときに見せてあげたい。そうすると 1 回見ていると大人になってもう 1 回見に行ったりするんですよ。こういう機会を子供たちに与えてやればすごいんじゃないかなと思うんですね。

毎回、教育委員会のときによく言ってるんですけど、諫早のポテンシャルがすごいっていうのが、市長もご存知の通り高城公園に公明選挙の碑がありますよね。公明選挙発祥の地という諫早はこういうことに関して非常に考えているその市民性というのが、ポテンシャル高いと思います。

だから本当はいい情報、いい機会を与えてると子供がぐっと伸びるんじゃないかなと私はそう思ってます。以上です。

〇教育長

先ほど各学校でいろんな人を呼んで講演とかやってるっていう話がありましたけど、市長、横浜国立大学の髙橋教授が金融教育を諫早中学校でやりましたよね。ああいうのもいいですね。

〇市長

金融リテラシーって、今、十八親和銀行が県立高校で少し金融の講座を持って金融教育をしてたんですけど、横浜国大で会計学の専門家ということで、母校の諫早中学校で講演会をしていただきました。普段大学生とか社会人相手にはしてるんですけど、中学生に講義するのは初めてだから教授もすごくやっぱり事前にだいぶいろんなことを考えて、どういう話し方が中学生に理解できるかなってだいぶ悩んだって言っていましたけども、機会があればいつでも呼んでくださいっていうことでした。一つの事例として、これは単発だったから、さっき委員に言われたようなそういう人材をきちっと、人材バンクみたいにとって、市内の小・中学校で、定期的にそういう講演ができるっていうのは非常にいい教育になるのかなと思いますね。

〇教育長

人材バンクの話も含めて素晴らしいですね。

〇教育委員

大久保市長のお話の中で、諫早市の子供が夢を描く、選択することができる、そして個性を伸ばすことができるっていうことを大事にしておきたいとおっしゃったと思うんですが、やはりそのためには、周りの大人が元気であることが大事かと思っております。

そこには私はこの２点あるかと思います。１点目が生涯学習の大事さがあるかと思います。先日の視察で尼崎に伺ったときに、市の雰囲気が落ち着かない時期が長かった時に生涯学習を市政の中心に据えたそうです。すると年月はかかったみたいなんですけれども、やはり街の雰囲気が良くなり、大人が元気になり、子供が元気になるっていういいスパイラルで動いてるような感じになったと尼崎の方がおっしゃっていました。ちょっと予算がかかるかと思うんですが、生涯学習を市のど真ん中に据えていただけたらありがたいなと思っております。あと２点目なんですけれど、子供たちの学校現場の話です。最近、やっぱりややもすると不登校の子供たちが増えているということで、不登校の子供

たちをどうするかっていうことに焦点がいきがちだと思うんですが、学校現場で他にもたくさんの子供たちが頑張っていて、そしてそれを先生方が頑張って教育してくださっていますが、ただそこにはどうしてもやっぱりマンパワーが足りなくて、マンパワーを入れようとすると予算が足りなくってと言うこともあると思っています。生涯教育、学校教育を含めて子供たちっていうのは、いかにたくさんの大人が関わってくれたかで育ちが変わってくると思うので、ぜひ、そういう子供たちのために関わる大人を増やすという視点を考えていただけたらありがたいと思います。小学校一年生で義務教育で入ってきた子供たちも、たった１０年でもう成人になるっていうのは現実的にあると思うので、１０年間大事に諫早市の子供たちを育むことができると、その子供たちが大学に行って、また戻ってきて諫早市に貢献をするであるとか、新しいこれから先どんな世の中になるかわからないけれど、創造性を持つ子供が育つことによって諫早市がこの先どうすればいいかと臨機応変に考えることができるようになると思うので、よろしくお願いいたします。

〇教育長

私も一緒に尼崎に行って思ったのは、今までは市が市民に何をしてくれるのかみたいな、そういう一方的だったのを、今度は市民が市に働きかけるとか、どんなふうにやって関わっていくかっていうそういう双方向の働きかけが大事だっていう話を聞いて非常に私も参考になりました。

〇教育委員

まずは、保育無償化、ありがとうございました。

それでまだ中学生の娘がおりまして、給食費の無償化はちょっといろいろ予算とかも聞いておりまして、莫大な予算をつけていただきましてありがとうございました。一家庭でいえば５０００円とかぐらいでしょうけども、よく話を聞くんですけども浮いたお金でみんなでお菓子を買って、いろいろ家庭で話をするそういう時間も作れるようになりましたとか、そういう嬉しい声も聞こえてきました。

保育園でございますので幼児教育って言いますか、保育の方ではありますけども、子供たちの育ちもそうなんですけども、今、親の困りごとっていいますか、それがなかなか多くなっておりまして、困った親さんからの相談とかです。うちも定期的に何か困りごとはございませんかとか、保護者の方に面接の希望がございませんかとかしております。希望のある方にはいろいろ話をして、そ

れでこれは園だけではなく、もっと行政に繋げなければいけないということで、子育て支援課とかに繋げて、子供で言えば、いろいろな施設に繋がる、親さんも保健師さんとかそういう行政のしっかりちゃんとわかってらっしゃる方と繋がってですね。

前はそこまで気にしてなかったんですけれども、行政の方から、どんどん「何かありませんか」っていうような案内が結構来るようになりまして、今までは、内々で職場で「どうしようか」って、閉塞感といいますか、逆に職場の困りごとみたいになったというときがあったんですけども、私達も本当に助かっております。子供の困りごと、そして親の困りごとで「えー」っていうようなことが出てくると思いますけども、これからも行政の方と、現場ももちろんしっかりと、１人１人に寄り添うような保育にも心がけますし、子育てをなさってる方々にも、園と行政としっかりタッグを組んで、いろいろ相談させていただきたいと思いますので、どうぞ今後も変わらずよろしくお願いいたします。

〇教育委員

不登校のことなんですけど、不登校にはいろんな原因があると思うんですけど、大多数の不登校の子は何かで学校に行くのがとってもつらくなって行けなくなってるんです。だから学校につらくなって行けないときは、「学校に行かなくてもいいよ」と、「しばらく休んでいいよ」と言ってやると、最初はほとんど目を合わせませんが、何回か面接を重ねると表情がだんだん明るくなる。

不登校にはいろんな原因あるけど、大抵の子はしばらく休んで、自分が学校に行かないとまずいと絶対思ってるし、勉強しなくちゃいけないと大抵の子は思ってるんで、その子に応じてゆっくりいられる居場所を作ってあげればと。

引きこもって家庭にずっといるっていうのが一番問題なんで、ちょっとでも外に出ていける、安心して出て行ける場所があると、学校関係のところには行けないけど、ちょっと話ができるような場所なら行けるような子、勉強を教えてくれるところは行ける子、少年センターには行ける子、保健室登校ができる子など、その子その子でずいぶん段階があるので、それぞれに応じた居場所をなるべく作っていただければと。

少年センターに行けないレベルの子たちの居場所をどっかに作っていただけないかなというのはあります。

あと保育園が今、いろんなことを期待されていて、今、保育時間が１１時間が基本で１３時間ってとこもあるみたいで、企業主導型とか、長時間親が働くために長時間保育していて、だから親と一緒に過ごす時間が１日のうちに２、

３時間みたいな子供たちが結構いるので、あまりにも子育てまで保育園に期待してるみたいな感じですよね。今の保育園に対するいろんな方法を見てみると、地域で子育てって言うけど保育園にすごい期待しているところがあるので、ぜひ保育園がうまくいくように何か考えていただければと本当に思います。

それと今、お産の後に疲れちゃっているお母さんがいっぱいいて、赤ちゃんは施設が見てあげて、お母さんが「ゆっくり寝ていいですよ」みたいなのをやっていて、利用者がだんだん増えているんですよ。そういう需要ってあるのでその辺の拡充は出来たらお願いしたいなと思っています。

あと予防接種も、今、おたふくかぜは任意接種で、おたふくかぜは耳が難聴の原因になるので、かかると５００人から１０００人に 1 人は難聴になります。だから諫早でも年間１人か２人がなります。

おたふく風邪は、髄膜炎を起こしやすいウイルスなのでワクチンでも髄膜炎がおこります。実際、２０００人に１人ぐらい、髄膜炎が起こったんで、５年間定期接種をやって髄膜炎が多いということで止めてるんです。国はＭＭＲワクチンで、復活させようと思っているみたいで、おたふくかぜ単独では、多分もう復活しないので、ＭＭＲが何年後に認可されるかはわからないけど、おたふくに少し補助を出すとか考えていただければと思っています。

今、おたふくのワクチンを打つとすると、６０００円から８０００円ぐらいの間で打てると思うので、そのうちの半額ぐらいの補助をＭＭＲがどうなるかを見極めた上で考えていただけないかなと思っております。

〇教育長

今４人の委員の方が、いろいろとご意見を言っていただきましたけど、聞かれて市長、感想、ご意見等ございますでしょうか？

〇市長

まず委員の諫早出身の非常に各界で活躍している方の人材バンクでは作ってないけどリストは確かいくらかあると、きちんとした形で諫早の子供たちにそういう講演を依頼をするっていうのは予算づけも含めてしていけば、またやっぱり早いときにいろんな刺激が出て選択肢も増えますので、非常に前向きに考えさせていただきたいと思います。またこれも教育長がいつも言われてるスポーツと文化のまち以外に図書館のまちということで、必ず諫早の図書館の活動報告を誇らしげにされるわけですけれども、まさにボランティアの皆さん、略して図連協という人たちが、この前、諫早コスモス音声翻訳の会が文部科学

大臣表彰を受けられたということで、本当に長年にわたる地道な活動をされてて、国会図書館で年間１万件ぐらいダウンロードされているというぐらい、諫早のボランティアの翻訳をした小説とか、あるいは市報も全部翻訳して国会図書館に提供しているから、１万件ぐらい利用者がいるということでかなり貢献もしているかなと思っています。そういったのも、若いときから一緒にボランティア活動に参画するようになって、非常にいいかなという思いをしています。

それから委員から言われました生涯学習は、しっかり重要性を認識させていただいて、確かに言われてみたら、大人の方も、その背中を見るということでですね、それから現場のマンパワーというのもこれも頭が痛い問題ですが、そういったところも課題としてありますので、しっかりやっていきたいと思います。

委員の方は、義務教育もですけどやっぱり保育の重要な役割を実際にやられておられますので、今日は子育ての担当はいませんけどもしっかり別々の問題ではなくて、やっぱり関連をしているということで、子供だけじゃなくて子育てをしている親の困りごとということで、すくすく広場とかいろんなところで対応はしてますけども、またそれはぜひしっかりと伝えていきたいというふうに思います。

委員の言われました、まさに前回のテーマでした不登校ですね、やはりこれも増えてるという現状があって、そこの背景をしっかり考えながらどうしていくかということが大事になってくるかと思います。産後ケアもしっかり担当が違いますが伝えさせていただきたいと思います。

〇教育長

今度はちょっと明るい話題っていいますか、展望が開ける話題ということで、非常に経済活動といいますか、ソニーの拡張でありますとか、京セラの諫早への進出でありますとか、九州一の商業施設がまもなく誕生しようと、あそこを通るたびに、希望の火がわくんですけども、そういう中で、育ててよしという面では人口を増やす、そして子供たちが増えないとまちが活性化しないんじゃないかなと思うんですね。

まちが活性化するから子供が増える、どちらでもいいんですけども、やっぱりそういう面での「やはり諫早で学んでよかったよね」みたいなこともあると、非常にありがたいなと思うんです。人口増そして子供たちの数が増える、そこに教育がうまく一緒になっていくということについて、市長はその辺どんなふうにお考えでしょうか。

〇市長

やはりそれは市政の非常に重要な課題として、地方都市が少子化や人口減少が進んでいるという、日本全体で見ると東京を中心とする都市部に集中をしているというところで、対策としては国策あるいは都道府県レベルの政策も必要になってくるんでしょうけど、私達としては何とか人口減少に歯止めをかけて、できれば定住人口が増えていくような方向に進めればいいなと思ってます。

嬉しいニュースとしては、人口増減には自然増減と社会増減があって、その自然増減、いわゆる亡くなる方と生まれる方の差し引きはどうしても自然減なので、これが自然増になるためにはやっぱり国策かなと思ってますが、でもそれも自然減をいわゆる減り方をなだらかにするためにいろんな総合的な政策をしていかないといけないかなと思います。

ただ嬉しいことに社会増減は、私が市長になって３年間は、たまたまかもしれませんが令和３年から社会増で、転入と転出では転入が上回っているということでありますのでこれは良い傾向です。これからさらに大手企業の拡張とか新設で数千人単位の雇用が見込めますので、そういったところは社会増に持っていって、そのためにも宅地政策も進めていかないといかんし、だから子育て支援を充実して、教育の充実をしていくということは、非常に大事になってくるかなと思います。

子供の数が少ないより多い方がそれだけ活気もあるし、競争も出てくるし、いろんな情報の交換もできるでしょうし、だからそういう意味ではそういう形が理想かなと思ってます。

〇教育長

委員の皆さん、その辺どうですか。

〇教育委員

子供の数が増えるのは、子供を産みたいと思うような社会環境が必要だと思います。私が衝撃だったのが、ある小学校の６年生を対象にした助産師のリモート講話があっていたときに、「何年後かに親になってると思う人」、「子供を産んでると思う人」って言ったら、手を挙げたのが数名だったので、なぜそう思わないのか子供たちに聞くと「大変そうだから」と答えていたので、とても驚いたことがあるんです。あと保護者の方に話を聞くと、子どもがずっと家でゲームして言うことを聞かないとか、動画視聴のやめさせ方が難しいなど、そういうメディアと子供の関りをどうしていけばいいのかということに悩んで

いるというのも非常に絡んできてる問題もあると思っております。
　ですのでやはり２つあるんですが、１点目は子供たちには、メディアがいいとか駄目とかいう話ではなくて、そもそも車を運転するときに運転免許がいるのと一緒でメディア機器を使うときにはメディアを使うためのちゃんとした教育が必要だと思うんです。
　そういうデジタル・シチズンシップをちゃんと持って社会に参画していくことが大事かと思うので、やっぱり小学校一年生のときからしっかりメディアを使うのはどういうことで、どこに気をつけていってと、教育をもっとしていくことが大事かなと思っております。
　あともう１点はもちろん子供たちが未成年であるので、保護者のアプローチがとても大事だと思っています。去年ですね、世界でいろんな動きがありまして、例えばアメリカニューヨークでニューヨーク州が YouTube とかを提訴して、子供が使いすぎると心身に影響があるからっていうので法整備したり、一番新しい情報でいくとドイツが１６歳以下の子供たちが SNS を自由に使えなくなるように法整備をしていくようになったとか、いろんな話がございます。それを受けて例えばインスタグラムでは、そもそもインスタグラムは１３歳未満は使えないようになってるんですが、１３歳から１７歳までの子たちに対して、例えば１日６０分以上使ってると使いすぎですよって警告があったり、あと知らない人からのアプローチができなくなったりするそうです。
　ただ、インスタグラム側はそのようにしても、それを保護者がそのロックを外してしまうとどうしようもないところがあります。このように企業の責任から保護者の責任に移ってるところがあって、ですので日本の中でもやはり保護者が最後の砦になるんだよということを、保護者に対する最新の教育を含めて、現状を伝える機会をより多く作っていく必要性があると思っております。そうすると子供を育てるうえで負担感が少なくなり、親の笑顔が増えていくと思います。それを見て子育てって楽しいんだと思う子供が増えていくような環境になっていくのではないかと思います。

〇教育委員
　メディアでいうと赤ちゃんもスマホを見ていますし、だから乳児がいるお母さんとか、小さい子の親の段階からメディアに対して、「もうちょっと注意した方がいいですよ」っていうことを教育していただく機会が 1 歳半健診のときでも３歳児健診のときでもしていただけるといいのではないかと思います。小さいときの子どもとメディアの接触時間とか、そういうことと子供の発達は

明らかに影響があるので子育てのことからいくと、小学校も幼稚園もそうだし、赤ちゃん持っているお母さん方への教育も考えていただけるとありがたい。

また、子供の睡眠時間がものすごく短くなっているんです。これは絶対的に変えないといけない。いろんなことで夜遅くまで、クラブ活動も夜遅くまでされています。学校も結構今早いので、今７時５０分ぐらいまでに学校に行かないといけないんです。だから私らの頃からすると３０分近く早く学校に行かないといけないから、早い学校になると「７時４５分までに来なさい」となっていますので、今早いんです。午前中に５時間授業をやってお昼ご飯を食べて、１時間、午後の部を持ってくる体制でされているので、朝は早いし、夜がどうしても遅くなるっていうのがあって、そこにものすごい危機感を持っていて、子供の教育のためには睡眠時間を長くした方がいいんじゃないかなと思っております。

〇教育長

朝早くしているのは、午前中に５時間で給食があって昼休みがあって、そしてあと１時間ぐらい授業をして、そのあとの時間を確保する。働き方改革でもあるんですけども、教材研究であるとか、会議の時間にするとかそういうことでやっているってことです。

先ほどの話の続きなんですけども、人口増ということにおいては、外国人の諫早への進出というのは非常に大事なところかなと思っているんです。

これは議会等でも盛んに言われているんですけれども、諫早の英語教育は、いろんな面で進んでいるんじゃないかなと思います。

ＡＬＴが現在、１０人おります。諫早市が雇っているんですけども１０人のＡＬＴがいるっていうのは非常に快いといいますか、皆さん優秀なんです。

アメリカから来てる若者なんですけれども、非常に一生懸命やってるし、イングリッシュスピーチコンテストとか、イングリッシュ・キャンプとかにも関わっていただいております。英語教育はとにかく普段から、日常会話の中からやるっていうことが一番大事なので、小中学校の時、お友達感覚で話をすると、非常に英語力も上がります。

もう一つ最近の悩みは、英語が話せないっていうか、通じないっていうか、そういう外国の人たちもいらっしゃるわけです。そういう人たちがアジア圏から来て、その方々にどういう教育をするかっていうのが非常に大事だと思っています。鎮西学院大学とか、長崎大学の留学生にお願いしたりしているんですけど、多くなると、専属の先生をつけないといけないかなと思っています。し

かし、国籍がいろいろなので、非常に難しい面があって今苦慮しているところです。しかし今から増えてくるだろうと思いますので諫早の課題です。この辺市長どうですかね。

○市長

実際、留学生もでしょうし、技能実習生、特定技能生というのももちろん増えていく傾向ですし、またそこに頼らないとなかなか社会とか産業が成り立たたないというのも事実でありますから、そういった意味で、ＡＳＥＡＮ諸国から入ってくる人たちで、特に現役世代の人たちがもし家族で来た場合、あるいはこっちで家族ができた場合とかいろんなことを想定して対策を打っていかないといけないので、今は少人数だからどうしても通訳とかが必要なときには鎮西学院大学の留学生にお願いをしてやってもらったりしてるんですかね。

○教育長

学校教育課長、どうですか。

○学校教育課長

鎮西学院大学の学生さんにお願いをして、また民間のボランティアの方にもお願いしております。

○市長

市の行政組織の中にも今企画政策課の方で国際交流という枠でやってますが、長崎県とかあるいは長崎市にあるような国際課なるものはないので、次なる機構改革のときにはそれは必要かなということをちょっとこの間議会でも答えました。どの部に作るかっていうことも含めてこれからの議論でしょうけど、おそらくそういうことがこれからは増えてくると思います。外国人の子供たちがきたときに。

○教育委員

以前、教育委員会で松戸に研修に行ったことがあるんですけども、いわゆる英検の問題というのがあるんですね。日本で一番英検に取り組んでいるのが埼玉で、本当なのかなと思っちゃうんですけども、中学校で２級とっているのが７割なんですよ。松戸が追い越せということで、すごい英語教育に力を入れていて、どうしてかというと、移民がすごかったんでどうしても英語教育をせざ

るを得ないということで、まず、人口も多いのでおそらくＮＨＫに出てらっしゃる外国の方と一緒に松戸市オリジナルの教科書まで作っちゃって、とりあえず６割ぐらいまで２級を取らせるようになったっていうんですけど、諫早も今、だんだんＡＬＴも増えていて、その力もありますから、ぜひその辺をすることによって人口増というのは難しい問題ですけど、逆に言うと諫早に住むと英検取れるよと。実はちょうど娘が受験期で、英検を持ってると結構いいんです。そのまま推薦枠に入っちゃうんですよ。準 1 級をとっておくとそのまま入っちゃうとかですね、そのぐらい今英検ものすごく重要視されてき始めたので受験で、そうすると諫早に住んでると自然に義務教育のときに、２級まで取れましたっていう話があると移住したくなりますよ、親としてみれば。

こういうのも一つの教育政策を経済政策に結びつけることができるんじゃないかなと思うんですけど。

もちろん不登校の子の話も、ものすごく隔離した話になりますけども、その一方でその教育の方の重点をするのも戦略の一つではないかなと思うので、ぜひ１回考えていただければと、予算をですね。

〇教育長

今の話は、埼玉が進んでいるっていう話なんですけど、そこでやってた人が、現在、諫早市の教育委員会のＡＬＴのコーディネーターしてるんですよ。だから、非常に良いコーディネーターで、英語も流暢です。ただ英検受験料の補助までは厳しいかなとみています。

〇教育委員

この前ＰＴＡの研究大会にご出席ありがとうございました。そのときにＰＴＡの役員から言われまして、資料３ページの上の方の４つありますけども、その下、学問、スポーツ、芸術など秀でた人を徹底応援するっていうことで、一番下の大会参加派遣費助成補助っていうことで、九州大会に出たら個人で５０００円、全国大会出たら１００００円とかそういうちょっと額ははっきりしないんですけども、今、部活動も結構クラブチームとか何とか言って、諫早市の例えばクラブチームに大村から来てみたり、こっちから長崎に行ってみたり大村に行ってみたりっていう子もおります。諫早の市民も九州大会も全国大会も出ます。どこの市町も助成はしてるそうなんですけども、額が違いますと、同じ大会に同じようにエントリーをして、何とか市はいくら何とか市はいくらっていうことで、何とか頑張ってもらえないでしょうか。例えば交通費の半分ぐ

らいとかですね、ちょっとお金がかかることなんでしょうけども、しばらく変わってないと思うんでその額っていうのが。だからその辺もう 1 回見直ししていただけたらありがたいかなということで、何人からかそういう意見をいただきました。

〇教育長

もうあと残り時間も少なくなってきたんですけど、私に１つだけちょっと言わせていただきたいなと思ってるのは、今、私は教育施策の中心にやっていることは、学校、保護者・ＰＴＡそれから地域住民、これが三位一体みんなで子供たちを盛り上げていくっていうものです。もう１つは、諫早は高校も元気なんです。大学も元気なんですよ。だから先ほどからあってるように、幼稚園、保育園、それから小学校、中学校、今、小中連携を強化していますが、幼稚園、保育園と小中高校大学、大学も鎮西学院大学だけじゃなくて、長崎大学とか純心大学とか活水大学とかありますので、そういったところも含んで何かできないかなと。「教育のまち・諫早」として、何かできないかなということを今考えているところでございます。どうぞ皆様方お知恵をお貸しいただければと思います。

それでは今日はいろんなご意見が出ましたけども、最後に市長の方から話をいただければと思います。

〇市長

まず過疎地である小長井地域で諫早で初めての義務教育学校を作るということで、これは日々石部教育長とも議会に対しても、ただの小学校の統合じゃないと、小中一貫の義務教育学校で、あとはどう特色ある教育をしていこうかということを話してますので、何べんも言いますように過疎地だから統合するんじゃなくてそれが夢と希望が持てる学校を作って、そこに、逆にあそこの学校に通わせたいと移住してくるようなそういう学校を作りたいねという話は常々してます。

そういう中で今日、委員の皆様からご意見をいただいたような英語に関する教育であったり、あるいは不登校の問題でやはりこの睡眠不足もあるし、メディアというのは早い時期にどう付き合っていくのか、メディアとはどういうものかっていうことを教えるっていうことも大事でしょうし、それから諫早中学校で実施したような金融というものを早く教えるっていうこともまた大事になってくるでしょうし、あとはやはり世の中がこのＤＸと言ってますのでそう

いったプログラミングの教育というのを早い時期にするっていうこともあるでしょうし、またいろんなご意見等を聞かせていただいて、何か非常にこの特色のある特徴のある諫早ならではの教育カリキュラムというのもできたら一つの大きなＰＲポイント、そしてまた育ててよしに貢献をするのではないかなというふうに思いますので、またどうぞ引き続きご意見いただければと思います。今日はありがとうございました。

〇教育長

市長ありがとうございました。

意見交換はここまでにしたいと思います。